



～つなぐ、つながる、つなげる～
「YBfab やがいアート展 2025」開催中

「YBfab やがいアート展 2025」を2025年11月1日（土）から11月24日（月）までの期間、やぶ市民交流広場（養父市八鹿町八鹿）で開催しています。

同アート展は4回目の開催となり、今年は4組のアーティストがやぶ市民交流広場内の芝生広場やホール棟ホワイエに作品を展示しています。

展示作品に触れたり写真を撮影することが可能なので、来場者によっていろんな楽しみ方を見つけることができます。

期間中には展示の他に、子どもたちが楽しく参加できるワークショップもあります。



擬音石像（作：馬淵 洋）



そこに仮に置いてみる 養父（作：森 太三）

- 1 テーマ つなぐ、つながる、つなげる
- 2 期間 2025年11月1日(土)～11月24日(月・祝)
- 3 会場 やぶ市民交流広場 芝生広場・ホール棟ホワイエ（養父市八鹿町八鹿538番地1）
- 4 入場料 無料（期間中のイベント含む）
- 5 主催 養父市、養父市教育委員会
- 6 期間中のイベント
 - （1）芝生広場に大風呂敷を広げる
日時 2025年11月9日（日）午前9時～午後4時（雨天中止）
場所 芝生広場
内容 福島を想う、日本各地の人々の手によって紡がれた10×10mの巨大パッチワークが、YABUフードEXPOの開催日に合わせ、芝生広場に登場します。
 - （2）かえっこ in YBファブ
日時 2025年11月15日（土）午前10時～午後2時
場所 ホール棟ラウンジ
内容 不要になったおもちゃ類を循環させる子ども主体のコミュニケーションプログラムです。

【問合せ】

市民生活部 まちづくり文化交流課 課長：宿南丈治 担当者：森本実千代
電話：079-662-0071

▶ 作品 No. 1

擬音石像

漫画などでおなじみの「擬音（ぎおん）」を立体化しています。これらの作品たちは、みる人が主役の作品です。目の前の擬音からイメージをふくらませて、あなたのお好きなポーズで作品を完成させてみてください。

馬淵 洋 Hiroshi MABUCHI

プロフィール | 兵庫県明石市生まれ。金沢美術工芸大学で彫刻を学ぶ。西宮船坂ビエンナーレ(西宮市)、下町芸術祭(神戸市)、生野ルートジャルダン芸術祭(朝来市)など、関西圏の芸術祭での発表多数。石を素材にした擬音語彫刻など、その土地や時代からウィットに富んだ表現を行っている。

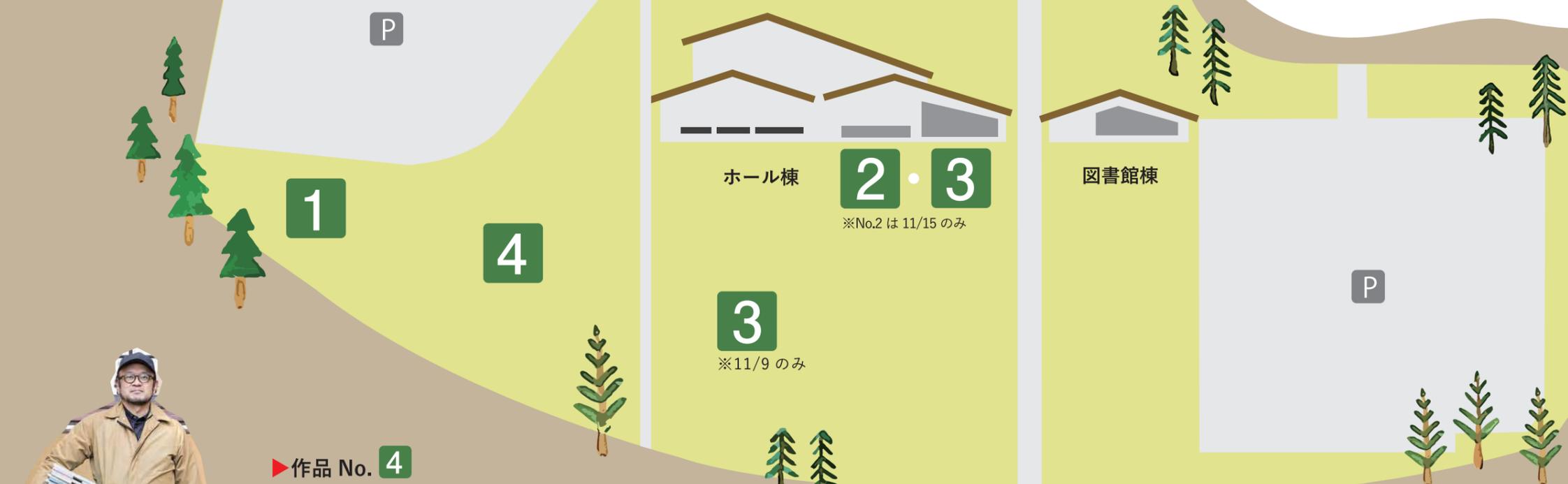


4年目を迎える「やがいアート展」。今年のテーマは「つなぐ、つながる、つなげる」です。このYBファブに点在する作品たちは、みて楽しめる作品ばかりです。でも今回はちょっとだけ、その作品に近寄って、作品やまわりの誰かとつながってみませんか？そこからあなたなりの楽しみ方を、ぜひみつけてみてください。

- ・展示作品はすべて写真撮影可能です。
- ・一部、作品に触れることができますが、故意に叩くなど、破損や危険性を伴う鑑賞はご遠慮ください。
- ・会期中のイベント等はこちらのQRからご確認ください。



つなぐ つながる つなげる



▶ 作品 No. 2 かえっこ

増え続けるビニールプラスチック廃棄物への違和感からはじまった、美術家・藤浩志ファミリーの小さなプロジェクトがもととなり、不要になったおもちゃ類を循環させる子ども主体のコミュニケーションプログラムです。
(※11/15のみ実施。参加方法は裏面をご覧ください)

藤 浩志 Hiroshi FUJI

プロフィール | 1960年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学在学中演劇に没頭した後、パプアニューギニア国立芸術学校講師、東京での都市計画コンサルタント勤務を経てプロジェクト型の美術表現を全国各地で実践。国内外のアートプロジェクトに数多く関わる。十和田市現代美術館館長を経て、現在は秋田公立美術大学教授。



▶ 作品 No. 4
そこに仮に置いてみる 養父

広場に多角形のベンチを仮に置いてみる。座る。寝転ぶ。空を眺めてみる。ベンチを動かしてみる。様々要素が重なりあい、成り立つこの世界を感じてみる。

森 太三 Taizo MORI

プロフィール | 1974年大阪府生まれ。1999年京都精華大学大学院美術研究科修了。1996年の初個展以降、個人の身体感覚によって生み出した小さなカタチを集積させて、展示空間内に架空の風景を表出させる作品を発表。2014年「STUDIO 森森」設立。展覧会企画や展示設営、ワークショップなどの美術に関わる様々な活動を展開している。

▶ 作品 No. 3 大風呂敷

福島を想う、日本各地の人々の手によって紡がれた巨大パッチワークが、YBファブに登場。ホール棟での展示のほか、11/9(日)の「YABU フード EXPO」にあわせ、10×10mの大風呂敷を芝生広場に敷き、コミュニティの場としても活用します。

プロジェクト FUKUSHIMA!

プロフィール | 東日本大震災後、福島の現在と未来を世界に発信することを目的に福島県内外の有志によって結成。(当初の代表は音楽家の大友良英、遠藤ミチロウと詩人の和合亮一)。2011年より毎年8月、巨大パッチワーク「福島大風呂敷」を広げて開催する「フェスティバル FUKUSHIMA!」を中心に、ネット放送局「DOMMUNE FUKUSHIMA!」や「スクール FUKUSHIMA!」などの活動を継続、2024年には、書籍「福島大風呂敷 FUKUSHIMA O-FUROSHIKI」とDVD「ドキュメンタリー プロジェクト FUKUSHIMA!」を発行し、地域をつなぐ取り組みを続けている。



いらなくなったおもちゃをもってきて！ほかのおもちゃと“かえっこ”しよう！！

かえっこ in YB ファブ

あさ ひる
にちじ **11月15日(土) 10:00~2:00**
ばしよ YB ファブ ホール棟ラウンジ
さんかしかく 「子ども」と「子どもの心をもったひと」
こころ

かえっこのあそびかた

1 かえるポイントをもらう

かえるポイントを「かえっこバンク」で、もらいます。そのほうほうは、

- ・あそばなくなったおもちゃをもってくる。(本やCDでもいいよ)
- ただし、こわれてあそべないものや、だいじなものはもってこないでね。ほかにも、
- ・としょかんで本を2さついじょうかりる。
- ・やがいアートてんをみて、かんそうをいう。
- ・かえっこのおみせをおてつだりする。でも、ポイントがもらえます。



2 ポイントをつかって“かえっこ”

もらったかえるポイントをつかって、「ショップコーナー」にあるおもちゃのなかから、すきなものをえらんで“かえっこ”しよう！

かえっこであつまったおもちゃは、またつぎのかえっこへ！

おもちゃたちは、そうやってつぎつぎにあたらしいおともだちとであっていきます。

あつまった「かえるポイント」は、おとなになるまでつかえます。どこかのかえっこでつかってね。

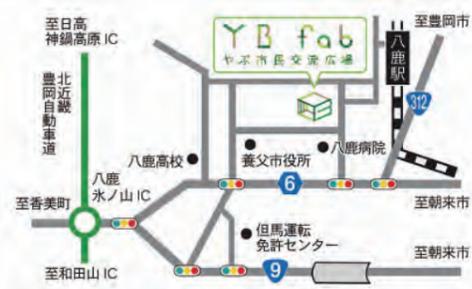


YB fab は「人と文化と郷土をつなぎ、未来を創る学びと交流の拠点」をコンセプトに、ホール、公民館、図書館、公園の機能を備えた複合施設です。

住所
〒667-0021 兵庫県養父市八鹿町八鹿 538 番地 1

アクセス

- ▶電車ご利用の方
JR山陰本線「八鹿駅」下車 西向きに徒歩10分
- ▶路線バスご利用の方
「八鹿駅」もしくは最寄りのバス乗り場より乗車「やぶ市民交流広場」/「諏訪町」バス停下車すぐ
- ▶自動車ご利用の方
北近畿豊岡自動車道「八鹿氷ノ山」IC 出口より10分



お問い合わせ | まちづくり文化交流課
やぶ市民交流広場

電話：079-662-0071 (8:30 ~ 17:15/ 平日のみ)
電話：079-662-0070 (9:00 ~ 17:00/ 月曜休館) ※月曜が祝日の場合は、その翌日が休館

つなぐ



藤浩志「かえっこ」



馬淵洋「.....!!!」

つなげる



プロジェクト FUKUSHIMA! 「大風田敷」



入場無料

2025.11.1(土) → 24(月・祝)

やぶ市民文化交流広場 芝生広場

(養父市八鹿町八鹿 538-1)

アーティスト | 藤浩志、馬淵洋、森太三

プロジェクト FUKUSHIMA!

主催 | 養父市、養父市教育委員会



森太三「ここに仮に置いてみる」 撮影：養父田原香

つなげる